
KARMAN～かるま！～

koro

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

KARMANゝかるま!ゝ

【Nコード】

N8699B

【作者名】

kororo

【あらすじ】

この物語は、少年「黒鳥陽平」が繰り広げる。愛と、感動の異世界突入系ファンタジー…ってのがタテマエ。実際はのんびりやってく予定。

プロローグ（前書き）

KARMANゝかるま！ゝ

始まりました！ちなみに、タイトル見て思った人、何人かいると思うけど…

決して！テ〇ルズオブジアビスの主題歌や、某少年魔法使い教師が主人公の大人気コミック「ねぎ〇！」とは、全く関係ありませんので、あしからず…。

プロローグ

冬の夜

とある道を

一人の黒髪黒目の少年が帰途についていた

急ぐこともなくとどまることもなく

ただ、歩いていた。

ふと、少年は立ち止まり、

冬の夜空を見上げた。

(∴ここで、満天の星空だったら映画のオープニングにはいいかもなあ)

考えていることが少し……ずれているようだ。

(ううう、さぶっ！早くかえろ)

少年は再び歩をすすめた。

ここは、さっきの少年とは別の世界

いや、別の次元：空間：似ているが、まったく違う世界。
ここでは、いかにも私は魔法使いです！

と、というような出で立ちをした若い男がいた。

若い男は、暗い部屋で怪しげな杖を持ち、これまた怪しげな紋様の前で

呪文のような言葉を唱えていた。

「ロゼ、オルム、ラクリルラ、ラカシュ、ヴォザゲリセム、ロザ、
ベイシス、テザフザ、コブケイ、アオケン、：ジェカリニウセス。」

「：我は冥王ジェリカニウセス、そなたはなぜ十大魔王の名を呼び、
そして我に呼びかけた？」

数十秒がたった頃だろうか、どこからか声が響いてきた。

その声は高くもなく低くもなく、男か女かも判別しにくい声だった。

「私の望みを叶えてほしい。」

若い男は臆することなくその声に答える。

「フフ：、その望みとは何だ？」

「異世界より人を召喚してほしい。」

「ふむ：、いいだろう。それで、代償は何をくれる？」

「ここにある魔力だ。」

「フフ：、代償の高い召喚に魔力とは：コレだから人は面白い：。
いいだろう！召喚してやる、それも上玉のやつをな。」

「そうか、なら早くしてくれ。時間が無いのでな。」

「せっかちなやつだ：フン、待っているすぐに呼び出してやる」

所は戻って少年のいる世界へ。

……皆さん、もうわかっていると思いますが……やっぱり王道でしょ！

ヴォン！！

「……なんだこれ。」

少年は、目の前に現れた黒い円を見て呟いた。

自分の家の前にこんなものがでてきたら誰だってそう思うだろう。
とりあえず少年は様子を見てみる。

……変化が無い。

このままじゃ家の中には入れない。

すると少年は困ったことに

（ま、突っ走ってみればなんとかなるだろ）

そう思った少年は……本当に突っ走ってみた。

……少年こと「黒鳥 陽平」はその判断を後で後悔することになる。
不幸な少年の冒険記（？）のはじまりはじまり

第一話：ブラックブラック（前書き）

やっところさ第一話。

大体、一話あたり1000～2000文字なので少し短めになります。

批評・感想・誤字脱字報告お待ちしております。

第一話：ブラックブラック

黒目黒髪の少年こと「黒鳥 陽平」
は息を切らし、暗い森の中を駆けていた…。

「つたく！ここはどこなんだよ！？ハアハア…」

俺は呟いた。

…最後のは息切れしてるだけで、変な事考えてるからじゃないからな！

オホンッ

俺…、「黒鳥 陽平」は、今年高校の入学したばかりのピッチピチの一年生だ。

……、のはずだ。

成績は中の中。

自慢できることといえば、一度読んだ本の内容は忘れないことだ。

……、一週間限定だが。

あと、父さんが我流の道場を開き、そこですこし習ったくらいだろうか。

……、あくまで我流だが。

んで、ある日学校から帰ってくると（帰宅部だが、友達と駄弁って遅くなっていた）家の前に黒い円が！

始めは警戒してたんだが、何にも起こらないのでどうせまた母さんのドッキリだろうと思いつつ…。

走り抜けようとした。そうだ…コレが間違いだったんだ。

その後は急に意識がブラックアウト。起きたら見知らぬ森で、今変な獣の追いかけて…。

……ん？追いかけて？

グルルル：

「グルルル：？ってぎゃー！！！！ゴメンナサイ！よくわかんないけど、とりあえずゴメンナサイ！！」

そうだった、俺が起きてははじめに見たものは茶色い熊のような動物だった。

：しかしその熊のような動物は頭にもう一つ目があって、両手の毛が金色だった。

んで、その三つつめの目とバッチリ目があっちゃったんだよ！

普通は逃げるよな？

「：んで今に至る。：ってこんな悠長なこと言ってらんねえ！！」

そろそろ疲れてきた。どうにかしないと殺される！

神様！俺なんか悪い事しました！？

と思った瞬間！

誰かに助けられるとでも思ったかい？ いやいや人生そんなタイミングのいいモンじゃないぜ？

チャララチャツチャチャ！

《ようへいはじんせいのきびしさをしった！》

そんなコンなしにいるうちに：道が無くなった。

：否。俺が崖から飛び出していた。

「うわああああ！！！！えーっと、こんな時はそうだ！秘技…ルパン空中泳法：ってなんでやねん！」

フツ、最期までツツコミ魂を忘れなかったか：これで悔いは無い：……。

……あれ？俺ってそんなにツツコミに命賭けてたっけ？

そんなバカな事考えてるうちに、みるみる地面が迫ってきていた。

そこで俺の意識は再びブラックアウト……………。

徐々に意識が覚醒してくることがわかる…。

閉じたまぶたの上から差し込んでくる微かな光を感じる…。

どうやら体は横たえられているようだ…

あれ？俺生きてる？たしか、デスノ〇トでは死んだら無とかいてたしな…。

それとも死んでも意識は残るのだろうか？

聴力が戻ってきたみたいだ…女の人の声が聞こえる…。

「ええーっとおー！？こういうときはどうしたらいいんだっけ？
ううんーっとおー？あっ、そうだ！確か体を氷水の中で冷やして乾
いた雑巾に乗せるだったっけ？」

もしかすると助かったのかもしれない！でも、A子さん（仮）その
治療法はぜんぜん違うぞ？

「よしっ、それじゃあ…んしょ…んしょ…よいしょっと！ええーっ
と確か…『魔素吸収…150、増幅…2倍、属性…水…スプラッシュ
ユ！』それと…『魔素吸収…300、増幅…2倍、属性…氷…アイ
スニードル！』」

ザバザバ

カキーン！ザクザク！！

え？魔素？2倍？属性？なんだよそれ？

：しかも嫌な予感がビンビンしてんだけど？

そして、わき腹が押されたかと思った次の瞬間！

ザブーン！

ギイアアアアアアアアアアアアアア！！！！！！

予想通りのオチと氷水の冷たさを通り越した痛さに
またまた覚醒を通り越して：ブラックアウト……。。

少年の受難(?)はつづく…。

第二話：混乱、麻痺、毒、暗闇、虚弱、…気絶。（前書き）

誤字脱字報告・感想・批評まってまゝす。

第二話…混亂、麻痺、毒、暗闇、虛弱、…氣絶。

どうも、こんにちわ、あれ？　こんばんわ、かな？
まあ、んなことはどうでもいい。

とりあえずあらすじ

俺、黒鳥 陽平は黒い穴に入った。失神した。起きたらどっか知らない所だった。熊っぽい動物から逃げた。崖から落ちて失神した。目が覚めかけたら、大量の極冷水水に入れられ三度目の失神。んで今、その張本人が目の前で謝り倒している…、という訳だ。

[illegible]

「わかった！わかったから！！…もういいよ…」

「え！？ ホントですか！？」

下から見上げてくる半泣きの目……怒るに怒れない……基本、俺は紳士だ。

「ホントホント」

「ふえ…あの…ほ、ほんとうにす…すみませんでしたああ！ふええ

ええええん!!」

「ああ：はいはい、わかったから：な？」

近所に子供が多かったのでこういう手合いには慣れてる。

：なだめればなだめるほど自己嫌悪し泣きつづける蟻地獄タイプと見た！

こういうのは基本はいい子なんだが、涙腺が緩いのとドツボにはまりやすいのが問題だな。

……フツ、伊達に何年も子守してないぜ！

「ふうええええええん!!びええええええええ!!!!」

うお! どんどん酷くなってきやがる!

「おゝおヨシヨシ」

(なでなで)

もう少し落ち着くまで待とう。

数十分後……

「ううう：グスッ、グスッ」

近所の子供のまんまだな……

「ほれほれ」

(なでなでなで)

「うう：あ、あの……ありがとう……ございました」

「別に敬語じゃなくてもいいぞ。年同じくらいだろうし」

「え、あ、う…うん！」

しかし笑っているとかなりかわいい。

白い肌、整った顔（目は碧色）、腰あたりまで伸びたストレートの茶髪、そして白いネコ…ミミィ！？

「え？えと…その耳は？」

「え？耳？ああコレ？まだいってなかったね！私獣人族の長の娘レイラ…フィオラルディアだよ！」

「えと…黒鳥 陽平…こっちでいうとヨウヘイ…クロトリだな。

一応…人間。そ、それと…じゅ、獣人って何？（しかも長の娘って事はやっぱり偉いのか？）」

「え？知らないの？（今じゃ王都にもたくさんいるのに…おかしいなあ？）ボソボソ」

「ん？今なんて？」

「へ？う、ううん！なんでもないよ！」

「あの…それより獣人を知らないってどこから来たの？」

「え…？来たって…、ここって日本じゃないのか？」

「え？にほんってドコ？ここはレナリオラだよ？」

「れな…りおら？日本じゃないのか…。でも日本語通じてるしなあ…」

まるでクエスチョンマークの嵐だな…。

そして、一時間後…

えーっと…とりあえずわかったことをまとめてみよう。

- ・ここは異世界「ヴァンセラート」
 - ・この世界は俗に言うふぁんたじいの世界らしい
 - ・俺は魔法によってこの世界に呼ばれたらしい
 - ・この街は獣人族の街であり人間（レイラ曰く人族）はいないらしい
 - ・どうやら、俺を呼び出した本人じゃないとこの世界に俺を帰すことはできないらしい（最重要）
 - ・余談だが、レイラの耳は猫ではなく虎らしい
- ああ…なんかまた気がとおくなる……なんかレイラが言ってるけど…いいや

少年の混乱はつづく…

第二話：混乱、麻痺、毒、暗闇、虚弱、…気絶。（後書き）

少々無理やり感がありますがキニシナイキニシナイ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8699b/>

KARMAN～かるま！～

2010年10月9日01時41分発行